

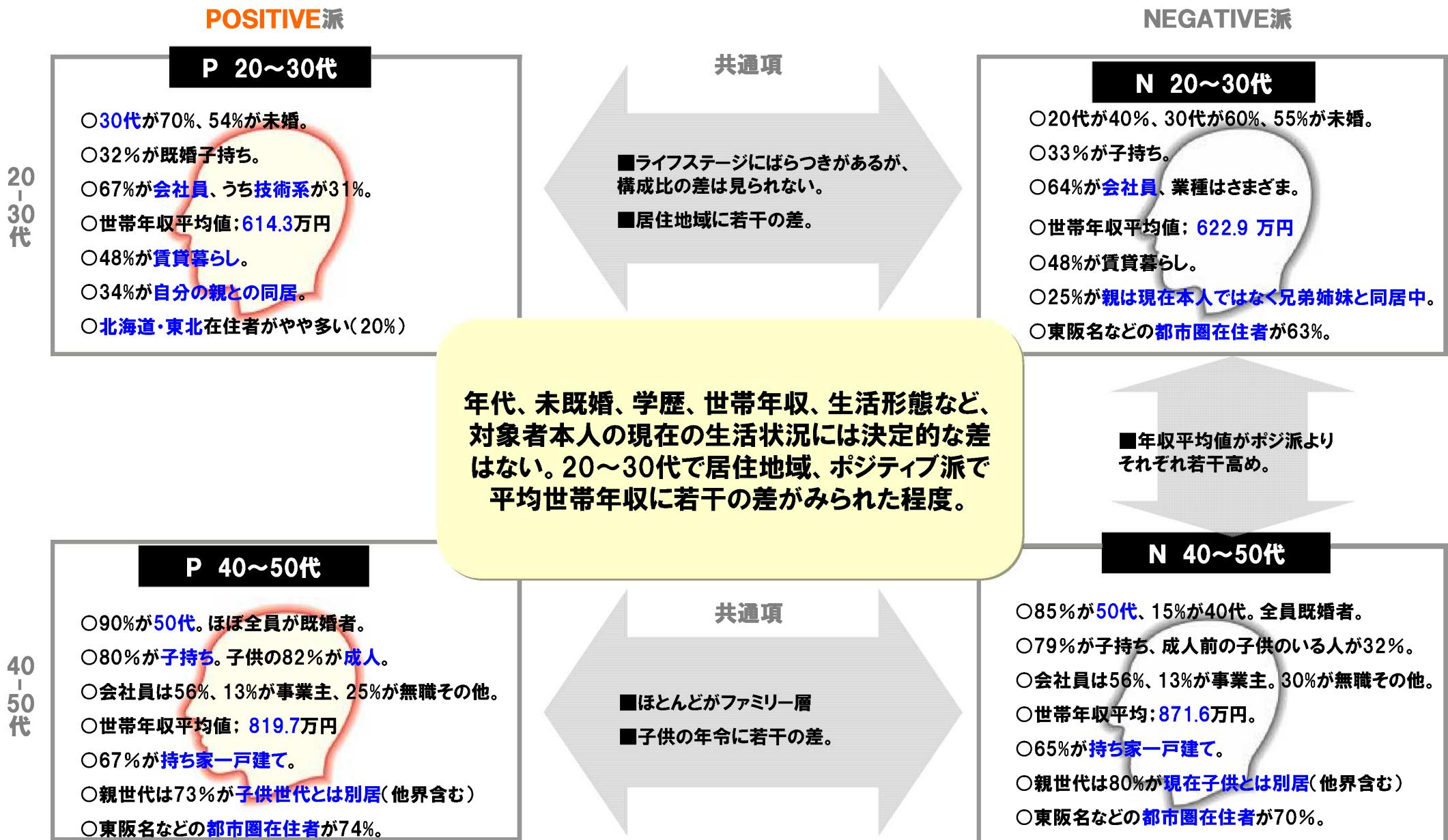
【倫理意識調査報告書2008】

家の継承に関する意識調査報告書

点か系か・継承に関する意識と行動を探る

点と系・調査結果の総括

1. 基本プロフィール



2. 繙承の意識(家の継承に対する価値意識、継承物へのこだわり)

20
-
30
代

POSITIVE派

P 20~30代

- 70%の人が自分が継ぐ予定だと言っているが、30%が迷っていたり、拒否をしている。
- 継承が自分のルーツ、生きた証になると強く意識し、親の面倒は長男がみたり、男子による継承を望ましいとする価値観を強く持っている。

共通項

- 成人式、進学、就職、結婚などで継承を意識するようになるが、実のところ、今は実感がない。
- 親や祖先を大切に想う気持ちがあり、家やお墓が継がれないことは「寂しい」とだと感じている。

NEGATIVE派

N 20~30代

- 57%の人が今の時点で継承については未定。
- 46%は自分が継ぎたいと言っているが、40%は継がないときっぱり宣言している。
- 冠婚葬祭などを取り仕切る役目はできれば避けたい、宗教・信仰は拒否したいと思っている。

共通項

- 親や祖先を想う気持ちだけでなく、人生における価値観の継承も大切にしたいと感じている。

どの層も家の継承は長男として自然に受け入れているが、
・家は継ぎたい人が継げばいい。性や序列は関係ない。
・個人の自由を束縛してまでの継承はない。
・家族の不和につながるような財産はいらない。
という現代的な考え方が共通している。

40
-
50
代

P 40~50代

- 83%が自分が継ぎたいと言い、迷いが少ない。
- 継承は自分の存在価値を家族、子孫、世の中に対して証明するものだと意識している。
- お墓にこだわりあり。

共通項

- すでに継承をすませている人が3割程度。
- 継承は親が死んだとき、強く意識。

N 40~50代

- 長男だからと言って必ずしも継ぐべきでないが、自分は継ぎたい/継いだした人が40%存在。はっきりと拒否をしている人が約30%。
- 「気持ちがあればお墓はいらない」などリベラルな考えを持っている。
- 宗教や宗教行事の継承には強い抵抗感がある。

3. 継承の背景要因その1(継承物、継承予定の家・墓の存在)

POSITIVE派

P 20~30代

- 継承する予定の家には、いずれ修繕や改築をして住みたいという人がネガティブ派より若干多い。

20
-
30
代



共通項

- 継承物に家屋・財産・不動産などのハードが多く、家も2世代以上の歴史がある。

P 40~50代

- 継承物にはお墓・位牌・仏壇の他、神棚まで含まれている。

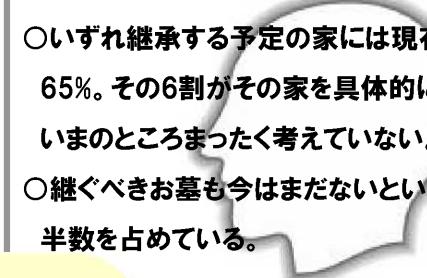
40
-
50
代



NEGATIVE派

N 20~30代

- いずれ継承する予定の家には現在住んでいない人が65%。その6割がその家を具体的にどうするかはいまのところまったく考えていない。
- 継ぐべきお墓も今はまだないという人が半数を占めている。

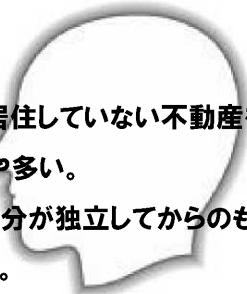


共通項

- 継ぐべきハードがそもそも少ない。
- 家も親の代からで歴史は浅い。

N 40~50代

- 親や親族が居住していない不動産を継承物に持つパターンがやや多い。
- 親の家は、自分が独立してからのものだという人も若干多い。



4. 繙承の背景要因その2(親とのかかわり、祖先礼拝の習慣、倫理意識から)

POSITIVE派

P 20~30代

- 親世代が親戚づきあいや墓参りなどの行事に熱心なため、お墓参りなどの時節行事にはいちおう参加はしている様子。しかし、日々の習慣としては根付いていない。

20
-
30
代

共通項

- 親の代で、親戚づきあいやお墓参りなどの時節行事の習慣がしっかりしていた。
- 倫理意識が強い

P 40~50代

- 大切に育てられたという記憶がある。
○親のことは尊敬していて仲も良い。
○家庭では父の存在感が大きい。

40
-
50
代

共通項

- 親に大切に育てられたという記憶を持ち、親を慕い敬っていて、親子関係は過去～将来的にも良好とみられる。
- 倫理意識に差がなく、全体的に良識派。

NEGATIVE派

N 20~30代

- 親戚づきあいなどは正直面倒くさく、祖先礼拝は生活の中で習慣にもなっていない。

共通項

- ポジティブ派に比べ、親世代の祖先礼拝の習慣はそれほどしっかりしていない。
- 倫理意識は普通にある。ポジ派よりは弱い。

N 40~50代

- 親もそれなりに親戚づきあいや祖先を大切にしたが、正直面倒だと思っている部分を見抜いていた。
○親とはやや対立してきた傾向あり。
 - ・成長過程で親とは意見が異なることがあった。
 - ・継承については意見が合わない部分も。
 - ・継承にトラブルのあるという人が少なからずいる。

共通項

- ホンネでは親戚づきあいは面倒。

5. 全体のまとめ(継承意識のポイントと課題)

- ポジティブ派(除く絶対派)及びネガティブ派(除く絶対派)とも長男継承を絶対命題とする意識は薄れている。
- 個人の自由を尊重し、争いごとを避けたいと言う意識が行き渡っている。
- 20代～30代では、継承を具体的に考えているかどうかの差でポジティブ／ネガティブの立場が決まる。
- 一方40代～50代では、継承についてポジティブな層はハードの継承を意識しており、継承についてネガティブな層は形骸的になりがちな宗教儀式を疑問視し、それに付随する面倒を回避しようとする傾向を示す。

親の姿が子に影響する。家長の煩わしさには抵抗。

⇒親が祖先や神仏を敬う態度が子に強く影響する。しかし、時代的の変化は回避しがたい。特に宗教に伴う冠婚葬祭を**家長として取り仕切ることへの抵抗**が強い。

親子仲が継承意識に繋がる。

⇒**親子仲がよいことが、気負いのない、積極的な継承意識を育てる。**父親や先祖に対しての敬意にもつながる。

家族のシンボルとしての「家」をどう考えるか？

⇒継承においては、「家や墓」等のハードが重要な役割を持つ。家の古さや家族の想い出、また代々の人への思いが付加されて、残したいという意識の強さにつながっていく。**物理的な「家」は極めて重要である。**

継承は距離を越えられるか？

⇒**家や地域を離れると、思いはあっても継承の困難は増す。**さらに子供世代ではこれらの問題はより顕著となり、敬称について期待できないことを認識している。社会的な家の拡散をどう考えるべきか？

継承についての実態と意識

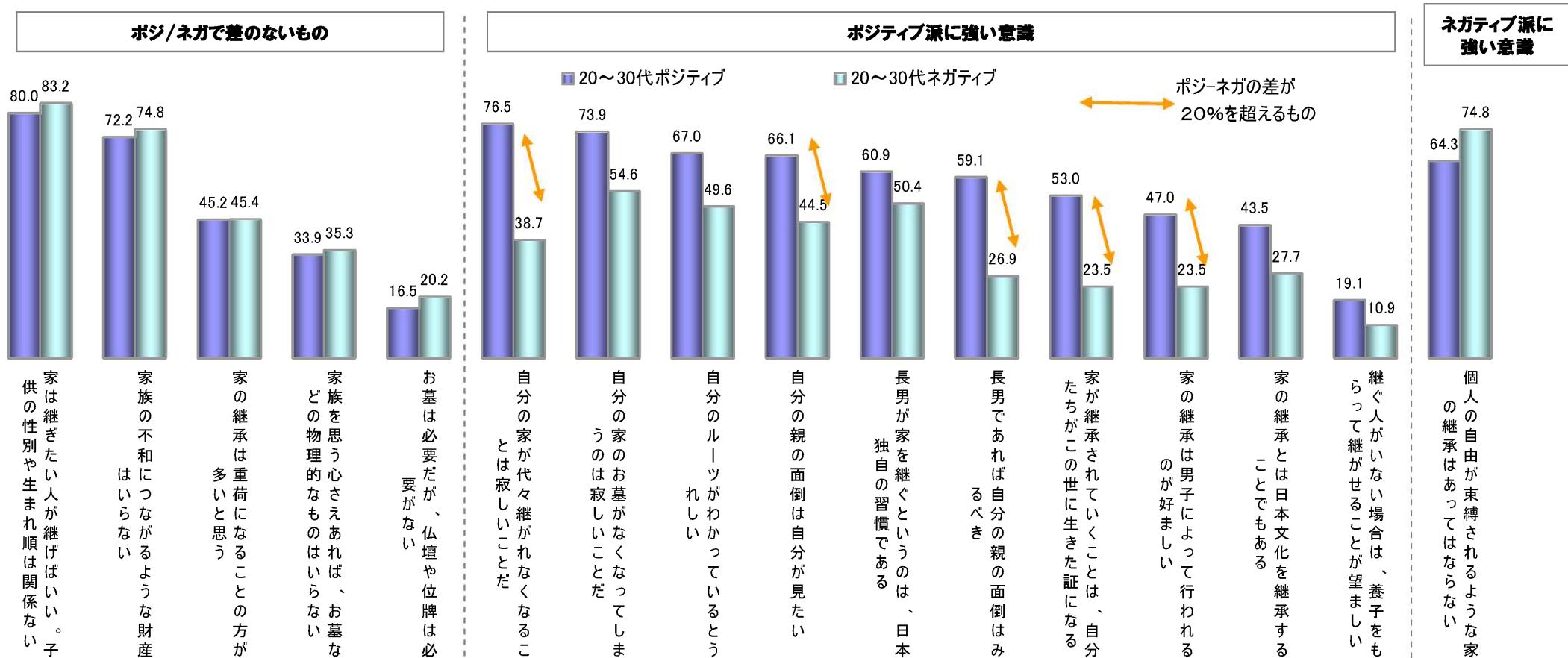
家の継承についての価値観(20~30代)

家の継承に関わる意識の5段階評価について、「当てはまる」「まあ当てはまる」の合計スコアの傾向を見る。

20~30代では、「家は継ぎたい人が継げばいい」「家族の不和につながるような財産はいらない」「家の継承は重荷になる」などの意識は継承の積極性/消極性に差は見られなかった。20~30代のポジティブ派は家やお墓が継がれなくなることを「寂しい」とことだし、また家の継承を“自分のルーツを示すもの”として強い価値を認めている。また、長男としての自分の役割・責任についても自ら強く意識している。

ネガティブ派は徹底した個人主義。継承というは日本独自の習慣は、「家族の不和をもたらすもの」として敬遠している。

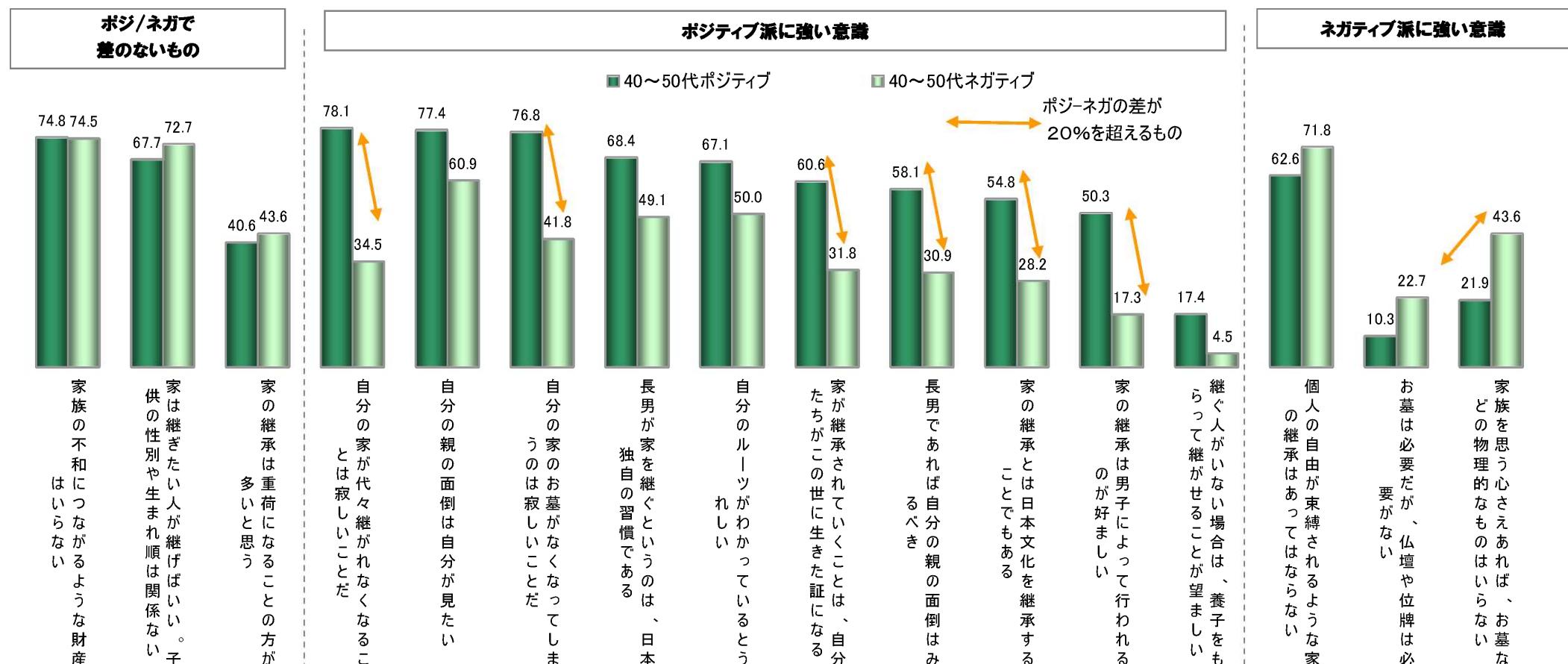
【家の継承にかかる意識項目 20~30代(「当てはまる」「まあ当てはまる」の合計スコア)】



家の継承についての価値観(40~50代)

- 40~50代の家の継承価値観をみると、「家は継ぎたい人が継げばいい」「家族の不和につながるような財産はいらない」「家の継承は重荷になる」などの意識にポジ・ネガ別の差が見られない点は若年層と同様の傾向。
- 40~50代のポジティブ派の意識は、基本的に20~30代のポジティブ派と同様。若年層との違いは、「自分の親の面倒は自分が見る」という意識が上位にある点。
- 40~50代ネガティブ派も若年層同様、徹底した個人主義であるが、「家族を思う心さえあればお墓などの物理的なものはいらない」「お墓は必要だが、仏壇や位牌は必要ない」など、お墓に対し、クールな考え方をしているのが特徴。

【家の継承にかかる意識 40~50代(「当てはまる」「まあ当てはまる」の合計スコア】



継承物とその優先度・取捨選択の実態

継承物

継承物の有無について、層ごとの傾向の違いをみる。

- 継承態度の積極性/消極性や年代に関係なく、「苗字」「血・血筋・家系」「親や先祖を大切にする気持ち」「お墓/位牌/仏壇」「家屋・土地」が継承物として上位に挙がった。
- ポジティブ派ではどの継承物についてもネガティブ派を上回り、年代ごとにカテゴリーの偏りは見られなかった。
- ネガティブ派では、「家長としての責任」「信仰」をはじめ、「不動産」「財産」なども含め、継ぐものが少ないとする傾向がある。

Q. 以下にあげたa~dのそれぞれについて、あなたご自身の状況や気持ちに当てはまるものをいくつでも選んでください

【自分が継ぐもの(継いだもの)(n=499)】

自分が継ぐもの（継いだもの）[MA]		全体	ハード						ソフト					マインド		ひとつもない 観
お墓/ など 位牌/ 仮壇	家屋 の 住居地 （ 家 族 ）		財產 （ 金 銭 的 な も の ）	地 ・ 建 物 不 動 産	住 居 用 以 外 の 不 動 産	ロ ー ン や 借 財	ノ 家 業 ハ ウ （ ウ 、 顧 客 、 な ど ）	苗 字 （ 氏 、 名 前 ）	血 ・ 血 筋 ・ 家 系	家長 と し て の 責 任	事 業 を 取 り 仕 事 な ど の 行 為	信 仰 （ 宗 教 、 宗 派 ）	親 や 先 祖 を 大 切 に			
全体		499	45.3	39.9	35.9	28.1	13.2	12.4	72.5	57.7	29.3	23.2	21.2	46.9	18.8	16.0
NSA_0 .1:年 代×ポ ジネガ 2	20~30代ポジティブ	115	47.0	45.2	40.0	32.2	14.8	17.4	71.3	60.9	36.5	26.1	25.2	48.7	18.3	16.5
	20~30代ネガティブ	119	35.3	29.4	29.4	21.0	7.6	10.1	62.2	52.9	19.3	15.1	15.1	42.9	14.3	24.4
	40~50代ポジティブ	155	54.8	46.5	40.0	34.8	15.5	14.2	80.6	69.0	39.4	32.3	29.7	56.8	26.5	8.4
	40~50代ネガティブ	110	40.9	36.4	32.7	21.8	14.5	7.3	73.6	43.6	18.2	16.4	11.8	35.5	13.6	17.3

自分が継ぐ上で大切にしたい継承物(20~30代)

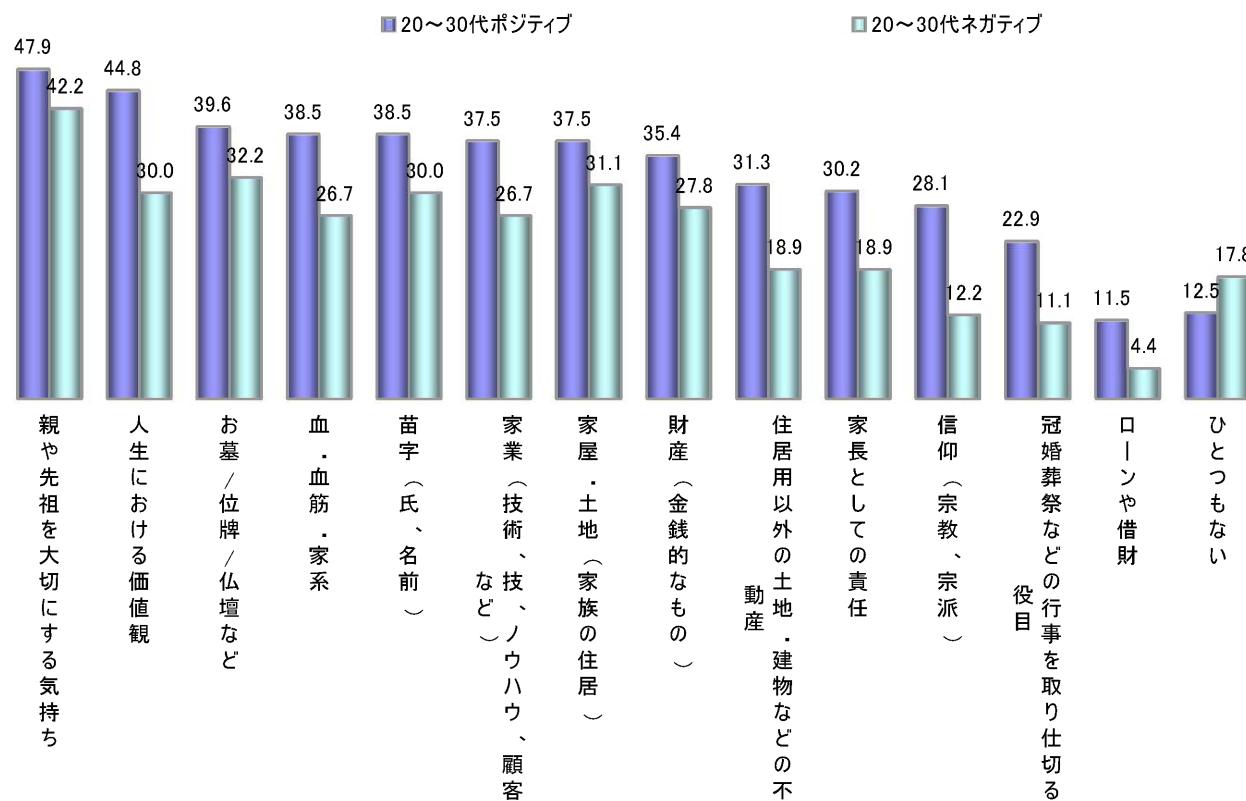
継承物が「ひとつもない」と回答した人を除外し、“自分が継ぐ上で大切にしたいもの”について尋ねた結果をまとめた。



20~30代では、すべての項目においてポジティブ派がネガティブ派を大きく上回っている。その中でも「信仰」「人生における価値観」「不動産」「家長としての責任」「血・血筋・家系」「冠婚葬祭などを取り仕切る役目」「家業」などの差が特に大きく、ポジティブ派では継ぐものが多いことに加え、ソフト/マインド面をより大切に考えている面が見受けられる。(ハードありきの結果?)

【自分が継ぐ上で大切にしたいこと(n=419)】

※ポジティブ派の高率順並べ替え



※「継ぐ(継いだ)もの」でいずれかを回答した人ベース。

【ポジティブ派－ネガティブ派の値の高率順】



自分が継ぐ上で大切にしたい継承物(40~50代)



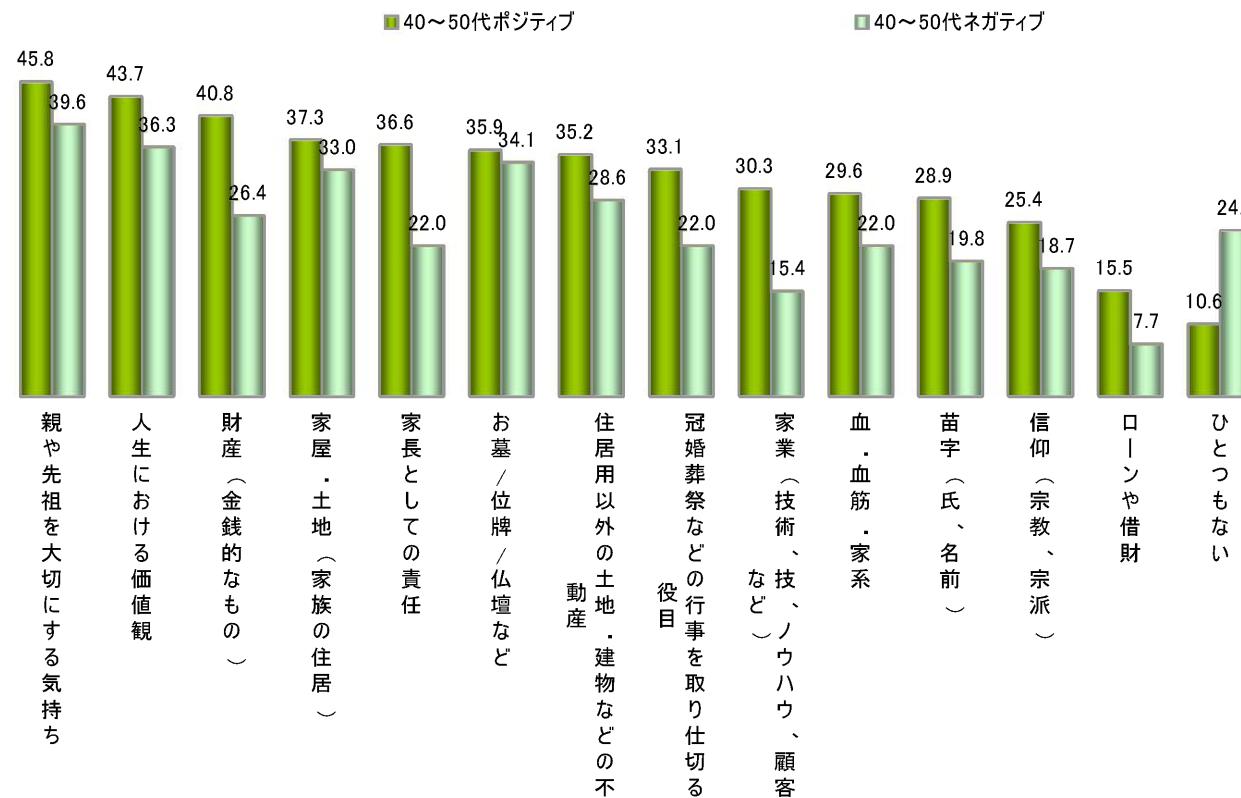
40~50代では、「お墓/位牌/仏壇」はポジティブ派とネガティブ派で差が少なく、継承意識に関わらずこの世代共通の関心事。

ポジティブ派とネガティブ派の差異は20~30代よりは接近する。「家長としての責任」における差異が大きくなるが、**この点の教育が重要なのではないか?**

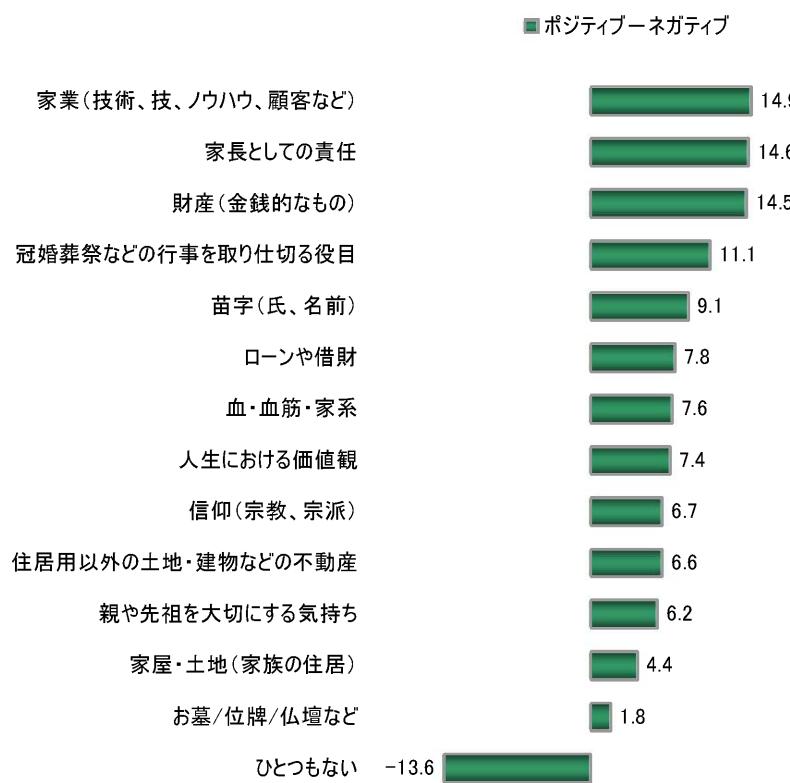
【自分が継ぐ上で大切にしたいこと(n=419)】

※「継ぐ(継いだ)もの」でいずれかを回答した人ベース。

※ポジティブ派の高率順並べ替え



【ポジティブ派－ネガティブ派の値の高率順】



継ぐのは面倒だがやむを得ない継承物(20~30代)

“継ぐのは面倒だがやむを得ない”ものから、ポジティブ派、ネガティブ派それぞれの“重責”意識の背景をみる。

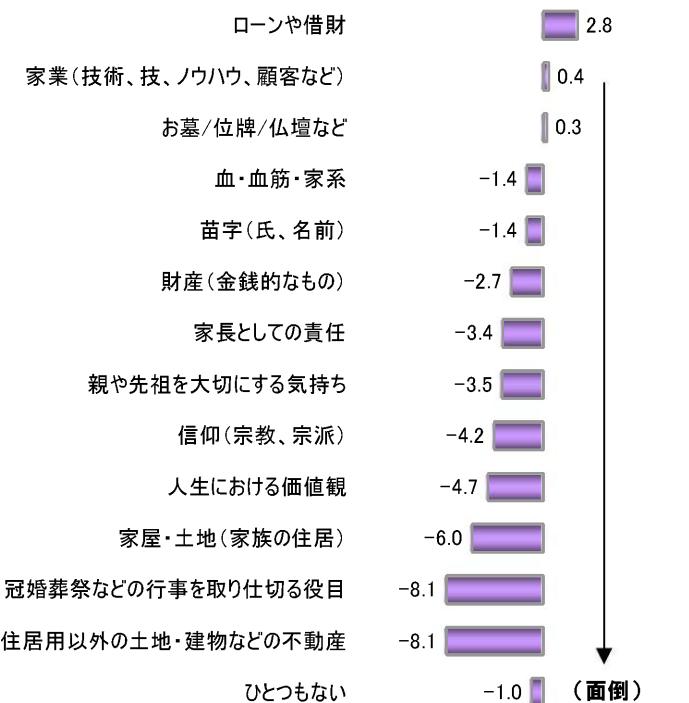
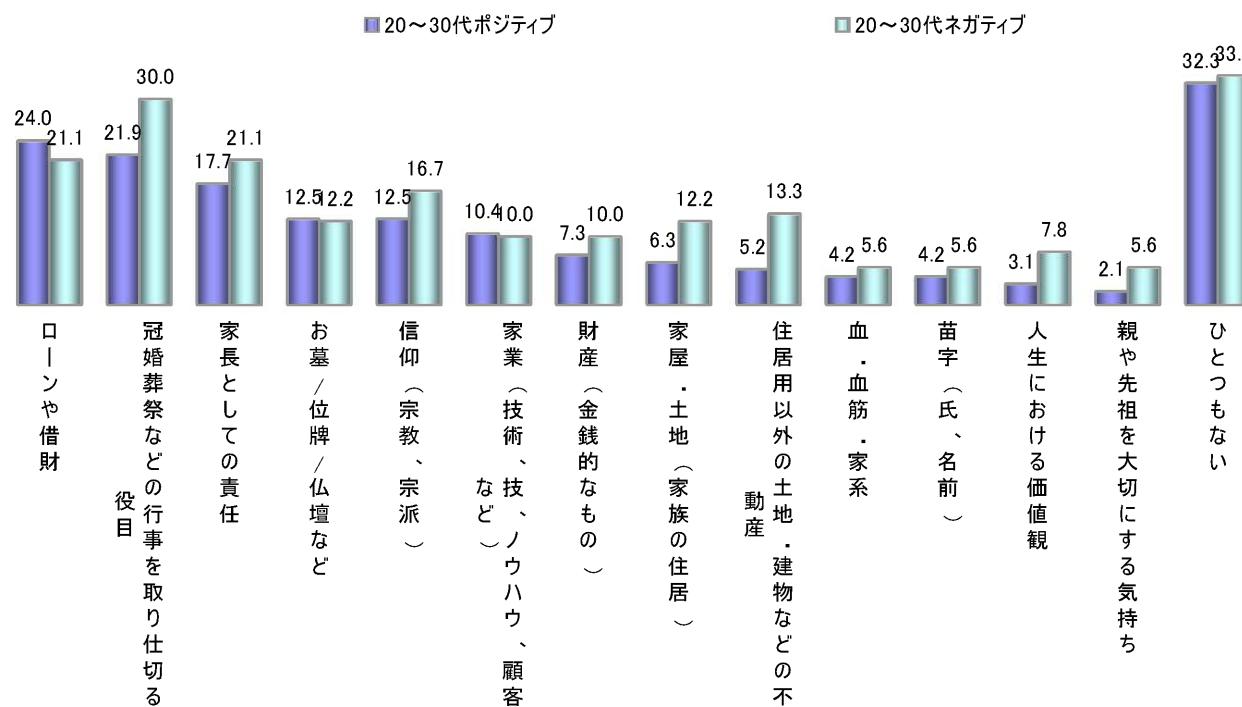
- 20~30代のポジティブ派では、「ローンや借財」「冠婚葬祭などの行事を取り仕切る役目」「家長としての責任」などを本音では重荷と感じている部分が多少なりともあるようだ。
- ネガティブ派では、「冠婚葬祭などの行事を取り仕切る役目」「家屋・土地」「住居以外の不動産」「家長としての責任」「人生における価値観」などがポジティブ派を大きく上回っており、管理責任という意味でのソフト、マインド面での継承をわざわざしと感じている傾向が見られた。

【継ぐのは面倒だかやむを得ない(かった)もの (n=419)】

※「継ぐ(継いだ)もの」でいずれかを回答した人ベース。

【ポジティブ派一ネガティブ派の値の高率順】

※ポジティブ派の高率順並べ替え

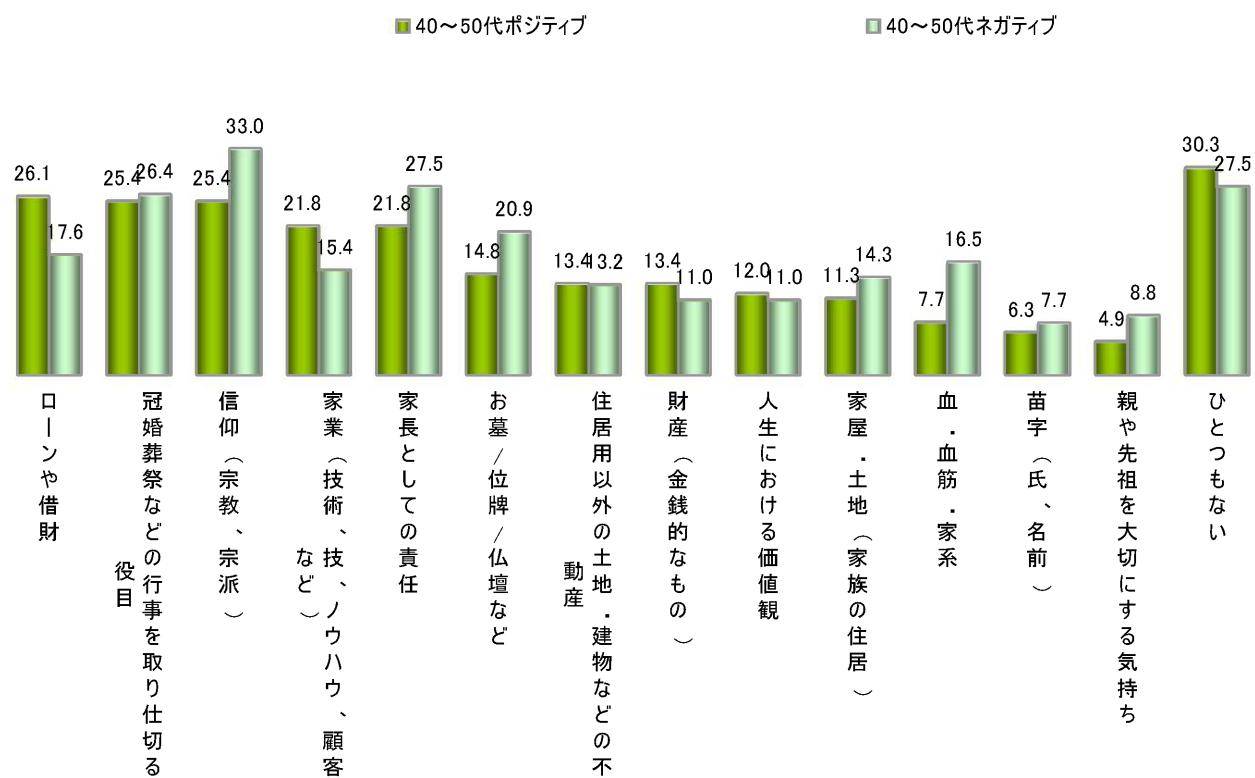


継ぐのは面倒だがやむを得ない継承物(40~50代)

- 40~50代のポジティブ派は、「ローンや借財」「冠婚葬祭などの行事を取り仕切る役目」「信仰」「家業」「家長としての責任」などに本音の部分では重荷を感じている。
- ネガティブ派では「信仰」「家長としての責任」「血・血筋・家系」などのソフト面を継承の重荷と感じている。

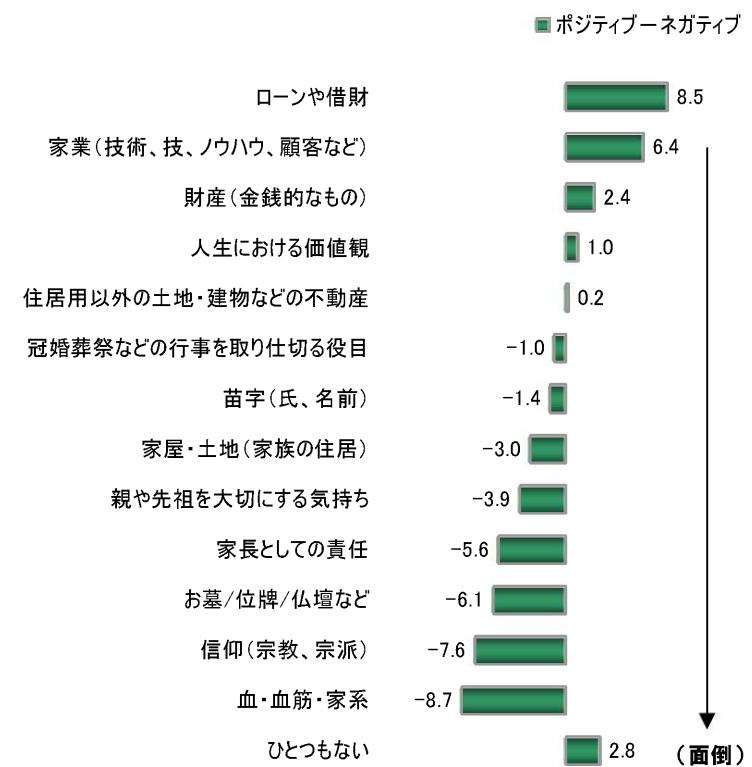
【継ぐのは面倒だかやむを得ない(かった)もの (n=419)】

※ポジティブ派の高率順並べ替え



※「継ぐ(継いだ)もの」でいずれかを回答した人ベース。

【ポジティブ派－ネガティブ派の値の高率順】



継承意識と倫理25への共感度

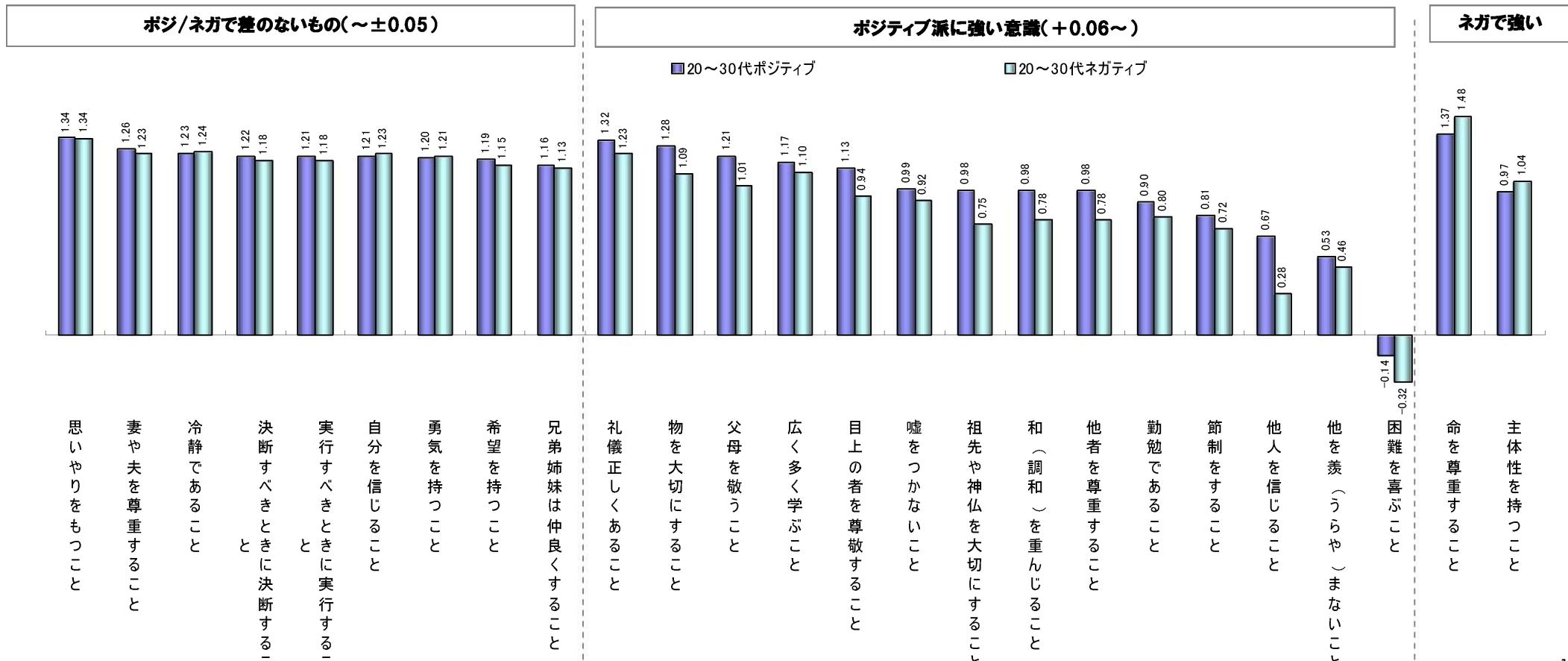
継承態度と倫理25への共感度(20~30代)

年代別継承意識の積極性/消極性と、倫理意識25項目との相関を見る。共感度トップ2BOX%の足し上げでは傾向値が見えにくいため、加重平均値を算出した。

- 20~30代では、ほとんどの項目でポジティブ派がネガティブ派を上回っている。特に「他人を信じること」「祖先や神仏を大切にすること」「和を重んじること」「他者を尊重すること」「父母を敬うこと」「目上のものを尊敬すること」「物を大切にすること」などの項目への共感度が強い傾向にある。
- 「困難を喜ぶこと」はポジティブ派・ネガティブ派ともマイナス値だが、ネガティブ派でより強い傾向にある。また、「主体性を持つこと」「命を尊重すること」ではネガティブ派がポジティブ派を若干上回っている。
- 「思いやりをもつこと」「冷静であること」「勇気を持つこと」「自分を信じること」などでは差は見られなかった。

※加重平均値の算出方法
共感できる +2、やや共感できる +1、
あまり共感出来ない -1、共感出来ない -2
とした。

【25倫理項目への共感度・加重平均スコア 20~30代】



継承態度と倫理25への共感度(40~50代)



40~50代では、「困難を喜ぶこと」以外のすべての項目でポジティブ派がネガティブ派を上回っている。特に、「祖先や神仏を大切にすること」「父母を敬うこと」「決断すべきときに決断すること」「広く多く学ぶこと」「実行すべきときに実行すること」「他人を信じること」などの項目に対し、ネガティブ派よりも強い共感度を示している。

※加重平均値の算出方法

共感できる +2、やや共感できる +1、
あまり共感出来ない -1、共感出来ない -2
とした。

【25倫理項目への共感度・加重平均スコア 40~50代】

